



ある日、ラオスへ行った。
そこで仲良くなった彼らは、
病院へ行っても意味がない事を知っていた。

僕たちは、そんなラオスの医療を、変えたい。

学生国際協力団体

HeartsTree

3年前、初代代表がバックパッカーとして、東南アジアの様々な国を巡った時、最貧国ながらも温かな人との出会いが多く、最も思い出が強い国となったのが「ラオス」でした。そこで「ラオスの人たちのために、何かできたら」と思い、有志とラオスへの国際協力をするを目的に、学生国際協力団体HeartsTreeが発足されました。

ラオスの医療系大学である、「ラオス健康科学大学」が三重大学医学部と学部提携を結んでいる縁などもあり、ラオス健康科学大学の教授を紹介して頂くことができたため、連絡を取り合いながら具体的な支援内容を考え、「ラオスへの医療支援をすること」を目的に活動していくことになりました。

2010年、たった3人の三重大生で設立されたHeartsTree。3年経った現在では、32人のメンバーが活動しており、地元・津とのつながりを活かしたイベントの開催・参加を通じてラオスへの支援活動行っています。

メンバー

5年生 - 5人

4年生 - 1人

3年生 - 9人

2年生 - 9人

1年生 - 8人

計32人



目標

<ラオスに病院を！>

2010.3 ~ 2012.3

ラオスへの医療支援の具体的な目標としては、医療過疎地区である

「ナファイに病院を建設すること」になりました。そこで、三重でのチャリティーイベント開催や、講演会、お祭りへの出店により資金を集めること、そしてラオスの現状を伝える活動に専念してきました。同時に、現地の方々と連絡を取り合いながら、病院建設の話を進めていきました。ついに、2012年3月に建設が終了し、ナファイに新しい病院が開院しました。その病院は現在も、ナファイ地区の人々に医療を提供し続けています。

<ラオスの医療を変える！>

2012.9 ~

診療所の建設後、新たな目標を掲げるために、新入生も含めたメンバーでディスカッションを重ね、8月に現地視察を行いました。そこで、ラオスでは公衆衛生に関する知識が普及しておらず、健康意識も低いこと。そして医療者の教育レベルも、先進国に比べて低いことを改めて実感し、「ラオスの医療を変えていきたい」という思いが生まれました。

「ラオスの医療を変える」といっても、物資支援や資金援助だけではありません。「今まで築いてきた現地の人々とのつながりを生かして、医療者の人材育成・現地住民への教育をしていくこと」に焦点をあてています。



サマフェス！/ラオフェス

私たちは年に1~2回、津市内でチャリティーイベントを行っています。すべての収益はラオスへの医療支援、団体の活動資金にあてられます。イベント内容は大学のサークルに所属している学生による音楽やダンス、ジャグリングの発表、また、音楽家やパフォーマーとして活動されている社会人による発表もあります。イベントの最後には国際協力に興味のない人も少しでも私たちの活動について知ってもらえるように活動紹介をする時間を設けています。このイベントはイベントに関わる全ての人が笑顔になれる私たちの一大イベントです！イベントに来てくれた人が楽しんでくれているのを見たり、メンバーでイベント終了後に達成感を分かち合う事もこのイベントの醍醐味です！

Charity Event

私たちは三重大学祭や津祭り、4月~11月までの間月1回津市で開催される「夢屋台」というイベントに屋台を出店させていただいています。屋台では東南アジアの名物料理「パッタイ」とラオスの地ビール「ピアラオ」(学祭はパッタイのみ)、現地で買い付けた東南アジアの雑貨などを販売しています。パッタイはこれまで何度もメンバー内で試作を繰り返したこともあり、お客さんから「おいしかったよ！」や「また食べに来たよ！」などと言っていた時のうれしさは格別です！また、学生だけでなく地域の方々と交流しながらワイワイ楽しく活動しています。

Hearts Tree×地域の方々

Hearts Treeを説明する時に欠かせないものの一つ、それは地域の方々とのつながりです。地域の方々の支えがあってこそ、私たちは活動できています。例えば私たちが毎年開催しているチャリティーイベント。イベントでは地域の飲食店様に協賛という形で金券をいただいてイベント内での賞品などに使用させていただいています。また、2012年11月の開催されたイベントでは飲食店様には屋台を出店していただきました。津祭りや夢屋台に学生である私たちが出店できているのも地域の方々のご厚意があってこそです。また、学生であるにも関わらずこれほどにまで社会人の方々に良くしていただき交流を持つことができるのはとてもいい経験となっています。

夢屋台



2010

- 3月/HeartsTree発足
- 4月/倉崎憲「足りないピース講演会」
- 7月/全学交流会・サマフェス！
- 8月/第1回現地視察
- 11月/第1回現地視察報告会
- 12月/ワンフェス！

2011

- 3月/HeartsFESI
- 4月/新入生歓迎会
- 7月/サマフェス！
- 8月/第2回現地視察
- 12月/第2回現地視察報告会

2012

- 2月/ワンフェス！
- 4月/新入生歓迎会
- 8月/第3回現地視察
- 11月/LAO FESI



Laos

ラオスの”今”を知る～現地視察～

私たちは年に1～2回実際にラオスに行き活動する「現地視察」を行っています。現地視察では私たちが増設をした分娩棟や付近の中核病院、大学の見学やJICAの職員の方とのミーティングをすることで現地の状況を自分の肌で感じ、その後の活動方針を決めるための判断材料としています。また、現地の先生や学生とごはんを食べたり観光することによって現地の人達とのつながりも深めています。



ラオスの”今”

私たちが分娩棟の増設を完了してから一番心配していたことは「増設した分娩棟がきちんと近隣住民に使用されているのか？」という事でした。2012年の現地視察で調査したところ、4月～8月の間に患者さんが全部で220人来院して、そのうち分娩棟を使用する患者さん(妊婦さん)は170人で8月に診察に来た妊婦さんは20人でした。これにより分娩棟がまずまずの機能をしている事がわかりました。しかし、まだまだ近隣住民への周知は不十分です。ラオスの保健分野で一番の問題は母子保健です。その中でもラオスでは特に妊産婦の死亡率が悪く、この原因は主に自宅出産と出産前に定期検診に来ない事の二つです。設備のある病院で出産する、定期検診を受診する、日本では当たり前の事がラオスでは行われていないのです。また、医療教育も十分ではなく、せっかく物資などを支援しても使いこなせる人がいない、という教育上の問題も存在します。



日程例(2012.8)

- 1日目 マホソット病院・セタティラート病院見学 (ラオス最大級の病院)
- 2日目 Naphi II Health Care Center視察 (HeartsTreeが支援している病院)
- 3日目 JICA ラオス支部見学
- 4日目 自由行動 (ラオス見学)
- 5日目 解散



HeartsTreeとラオス

これからの、ゆめ

〇〇でラオスの医療をかえる！！

ラオスに病院を建てることを目標に活動してきた私たちは、病院を建てた今、今後の支援をどうしていくのか悩み、立ち止まりました。

このままラオスに携わってゆくのか、目標達成を節目にまた新たに支援する国をきめるのか、、、たくさんたくさん話し合いました。

ミーティングを重ねメンバーで話し合った結果、やはりこれまでのつながりを大事にしてゆきたい、ラオスで知り合った学生とまた会って一緒にラオスを変えてゆきたい、そんな気持ちから“ラオスの医療を変える”という目標を新たに掲げました。

医療を変えるなんて漠然とした課題、、、しかし私たちは長いスパンで考えて内側からも外側からもラオスの医療を変えてゆくアイデアを考えました。

長い時間メンバーで話し合ったからこそ打ち出したとんでもない、クレイジーなアイデア。でも本当に医療を変えることができるアイデアです。

どんなアイデアかは2月10日のプレゼンテーションで是非お聞きください！